

Build Live Japan 2015 での 部屋分類コードの設定について

Build Live Japan 2015 で最後に提出して頂く IFC データには、各部屋オブジェクトに対して部屋名に加え、課題「別表」に記載している「部屋分類コード」を付与するよう求めています。「部屋分類コード」を付与した IFC データを作成するには、モデル作成や IFC 出力の際、下表の操作を行ってください。なお、BLJ2015 の地域賞審査には部屋分類コードは必要ありませんが、IAI や審査員による技術面の審査では提出された IFC データで確認しますので、一定の約束に沿った IFC データを作成して頂くと審査しやすいです。

部屋オブジェクトは IFC データに出力されたときに IfcSpace と呼ばれるオブジェクトになり、室名は IfcSpace の LongName という属性で表現されます。Build Live2015 ではこれに加えて「部屋分類コード」を IfcSpace の Name という属性で表現してください。(BLT2012 から同じ約束です)

- ① 部屋オブジェクトは、IfcSpace として出力する
- ② 部屋名は、IfcSpace の LongName 属性(Attribute)で表現する
- ③ 「部屋分類コード」は IfcSpace の Name 属性(Attribute)で表現する

①②は BIM ソフト毎の標準的な部屋オブジェクト入力と IFC 出力の操作をすると自動的に設定されます。特に意識する必要はありません。これに対して③は Build Live 独自の約束なので、特別な入力手順と IFC 出力設定が別途必要です。また BIM ソフト毎に操作が異なります。次表に代表的な BIM ソフト毎の設定方法を示します。

表：BLJ2015 指定の IFC データを作成するための BIM ソフト毎の手順

BIM ソフト名	部屋オブジェクトの呼称	部屋名と部屋分類コードの入力法 および IFC 出力時の確認・設定
ArchiCAD	ゾーン	<ol style="list-style-type: none"> ① 通常の部屋名を「ゾーン名」として入力する ② 部屋分類コードを「ゾーン番号」として入力する ③ IFC 出力設定で上記 2 つの出力先が IfcSpace の Longname, Name (初期状態)になっていることを確認
BentleyArchitecture	スペース	<ol style="list-style-type: none"> ① 通常の部屋名を「ラベル 1」として入力する。部屋名の枝番等は「ラベル 2」として入力する (ラベル 1 とラベル 2 の文字列をつなぎ合わせたものが IfcSpace の LongName になる) ② 部屋分類コードを「番号」として入力する
GLOOBE	スペース	<ol style="list-style-type: none"> ① 通常の部屋名をスペースの「名称」として入力する ② 部屋分類コードをスペースの「記号」として入力する ③ IFC エクスポートの設定で Unicode を ON にする。(推奨) ④ IFC 出力時にスペースの出力が ON (初期状態)になっていることを確認
Revit	部屋	<ol style="list-style-type: none"> ① 通常の部屋名を部屋のプロパティの「識別情報/名前」として入力する ② 部屋分類コードを部屋のプロパティの「識別情報/番号」として入力する (番号は自動で振られているが書き換え可能)
VectorWorks	スペース	<ol style="list-style-type: none"> ① スペース図形を選択して「データパレット」上で以下を入力する ② 通常の部屋名を「スペース名」として入力する ③ 部屋分類コードを「スペース番号」として入力する ④ スペース名はポップアップメニューから選択するか「リストを編集」で追加する

この表以外のソフトウェアを使用するときは、この説明書を示してベンダーにお問い合わせください。

(※部屋分類コードを IfcSpace の Name Attribute として出力する操作の確認です)